

第18回 全国女性行政書士交流会 IN えひめ に参加して

女性行政書士交流会石川会会長 大森 千歌子

平成19年7月7日(土) 8日(日)の2日間にわたり、愛媛県松山市で開催され、全国から77名が参加しました。石川会からは、大星三千代会員と大森千歌子の2名が参加いたしました。会場となる道後温泉の宝荘ホテルへ到着するまでの間に会った松山の人々の暖か味のある人柄に触れることが出来たこと、街の中には小説『坊ちゃん』の登場人物に扮した案内人が登場、街には店の名前も「坊ちゃん」や「マドンナ」の名前が多く夏目漱石の偉大さを感じました。第18回全国女性行政書士交流会INえひめでは、愛媛会の幸後洋子世話人代表から開会の挨拶があり、続いて愛媛県行政書士会篠森和雄会長から歓迎の挨拶をいただきました。

講演会では、松山東雲女子大学教授塩崎千枝子様から「巣立てない子どもたち」と題して教育現場で感じたこと、体験したことについて話されました。

留学生が多く学んでいるので、その人たちに日本人の印象を聞くと、日本人は思っていたよりよい人達だったといっている。そのよいところ



とは、時間を守る、正直である、親切である、ということだと言う。だが、はっきりと意見を言わない、決めなければならないときに決められないという悪い点も有ると言っている。人間を取り巻く環境が小さくなったため、人間

が育つ範囲が狭くなっている。学校、家庭以外の世界が子ども達にはなくなっている。現在の母親は、立派な子にしようと種々な習い事、学習塾へと子ども達は毎日多忙な生活を送っている状況である。その反面、子供には、食事作り、洗濯、掃除などの手伝いは何もさせない。

子供の時は、野外で自由に飛び回って遊ぶことがよいので。子ども達同士での遊びの中で、豊かで、たくましい心と体力、社会の担い手となるための精神的、社会的、生活的の訓練ができ自立する能力が育つのである。

日本人として守って行きたいこと、伝えたい大切なこと、自分で判断し、自分で行動しうまく行っても行かなくても、自分で責任をとれる子どもを育てることが大切である。

それは、母親だけの責任ではなく社会全体の責任であるという考えをもつ事が大切である。そうすることにより、喜んで子どもを産み育てられる社会が生まれるとともに、自立できる子どもが育つということである。

グループ座談会では、8グループに分かれて行政書士になったきっかけ、行政書士になって苦労したこと、今後行政書士として仕事を続けて行くうえでの問題点などについて、各人が意見を述べ、その中で業務の取り扱いについてのアドバイスもあり、有意義な会となりました。今回参加した方々の主たる取り扱い業務については、次の結果でした。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1.建設業 (37) | 2.法人設立 (28) |
| 3.農地法 (27) | 4.産業廃棄物 (24) |
| 5.契約、内容証明 (15) | 6.相続 (13) |
| 7.運送業 (12) | 8.帰化、入国管理 (10) |
| 9.風俗営業 (10) | 10.宅建業 (7) |
| 11.記帳代行 (7) | 12.土地開発 (4) |
| 13.その他 (12) | |

第19回全国女性行政書士交流会は長野県で開催されます。多数参加できますように願い報告いたします。

